

登録実用新案第三六〇八一〇号

第二〇〇類 四、白熱電燈

願書番号 昭和二十一年第七二六一号

出願 昭和二十一年八月三十日

登録 昭和二十三年四月二十一日

公告(編纂) 昭和二十二年十一月二十八日

実用新案出願公告第三三五九号

市川市真間一七三番地

実用新案権者(考案者) 加納 栄次郎

代理人 弁理士 早川 潔

懐中電燈

図面の略解 第一図は本案の正面図、第二図は平面図にして一部切欠す、第三図は縦断側面図、第四図は分解図にして一部切欠す

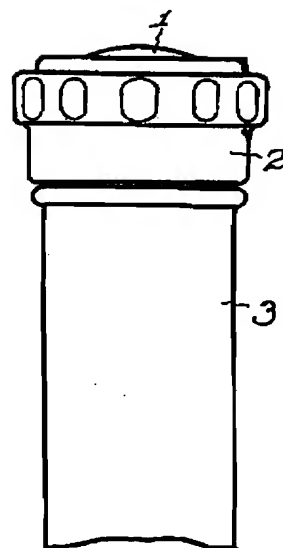
実用新案の性質作用及効果の要領 本考案はレンズ1と内面に螺旋を有するレンズ支持筒2とを透明合成樹脂にて同一体に形成し之を燈筒3の先端部に螺旋せしめ反射鏡4及び電球5を被覆したる構造に係り在来硝子にて作られたるレンズと金属にて作りたるレンズ支持筒とを透明合成樹脂にて同一体に型成するものなり燈筒3は金属筒とし先端部に螺旋を設け絶縁物を介して反射鏡4及び電球5を装備す
本考案は以上の如くレンズ1と支持筒2とが透明なる合成樹脂にて同一体に作らるるを以て之を単に燈筒の先端に螺旋着脱するに止り反射鏡及び電球を被覆し得べくレンズは支持筒より分離することなく動揺破壊なく支持筒は弾性的に螺旋せられ振動により弛み脱落せず携帯用として便利

(昭和三十一年十二月二十八日特許庁発行)

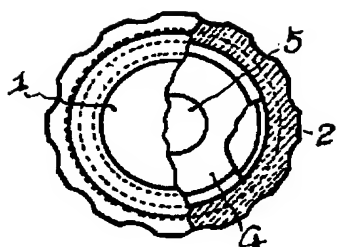
なるものなり又レンズは透明にして透光率に於て硝子に劣ることなく多少の弾性を有し衝撃により破壊亀裂を生ぜず電球より放射する光線の外周一部が屈折反射して支持筒を通して後方より点滅如何を區別し得て使用上便利なるものなり

登録請求の範囲 図面に示す如くレンズ1と内面に螺旋を有するレンズ支持筒2とを透明合成樹脂にて同一体に形成し之を燈筒3の先端部に螺旋せしめ反射鏡4及び電球5を被覆したる懐中電燈の構造

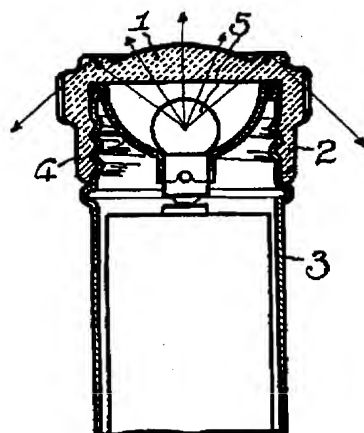
第1图



第2图



第3图



第4图

